

(牧師室より)

[九死に一生]

神学校同期卒業で私より三歳年上の大野恵正兄は三つの教会を牧会し、活水女子大学教授を勤め、今は隠退して福岡県筑紫野市に住まっています。時々『神の庭にてー筑紫野だより』を送って頂いています(こちらからは週報、鶏鳴を送付)。今回その第31号3月発行に次の文章がありました。「わたしにとっての『あの日』と呼ぶべき最初の日は、何といても1945年3月10日である。わたしは東京の浅草で生まれ、そこで育っていた。あと1年後には荒木貞夫大将がそこで学んだという、田原小学校の1年生になることになっていた。だが、その日の午前0時に、爆音と共にどこかで火の手が上がった(中略)。これは危ないというので、防空頭巾を被り、母の手にひかれて弟と共に、隅田川に向かった(中略)。川縁に出たとき、突然焼夷弾が近くに落ち、わたしの衣服に火がついた。母は突然わたしを突き倒し、わたしの全身をその身で覆った」。(この先の記述を知りたい方は私まで)。東京大空襲でまさに九死に一生をえた大野兄なんですね。ここで命を失っていたら牧師、また旧約聖書学者の大野兄はありませんでした。『旧約聖書入門』(教会図書にあります)、『旧約聖書注解』(出エジプト記担当)『旧約聖書略解』(創世記担当)、最近は530頁に及ぶ大著『神の言葉と契約』を出版。多くの牧師、信徒が旧約の手引きを受けています。今後とも壮健で日本と教会に貢献してほしいと願っています。